

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度第2回 甲州市高齢者虐待防止・地域見守りネットワーク運営委員会
開催日時	令和5年1月31日(火) 13時30分～15時30分
開催場所	甲州市役所 2階 第一会議室
議題	<p>(1) 本委員会および部会の説明</p> <p>(2) 令和4年度上半期事業報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護について ・認知症対策について <p>(3) 地域課題の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の想いを尊重した支援について ・高齢者の困りごと早期発見における体制づくりについて
出席委員	<p>中村文雄委員、中村功委員、雨宮正明委員、藤巻友美委員、広瀬貴史委員、岩波充宏委員、大木美由喜委員、久保田正春委員、斎藤哲規委員、益田美保委員、中村達也委員、奥山さおり委員、名取建治委員</p> <p>欠席：荻原里美子委員</p>
会議の公開又は非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	
傍聴人の数	0 人
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	<p>介護支援課 地域包括支援担当</p> <p style="text-align: center;">TEL : 0553-32-5600</p>
その他	※ 上記以外で審議会等が必要と認める事項

令和4年度第2回

甲州市高齢者虐待防止・地域見守りネットワーク運営委員会

日時 令和5年1月31日(火)午後1時30分～午後3時00分

場所 本庁第一会議室

出席 中村(文)・中村(功)・雨宮・藤巻・広瀬・岩波・大木・久保田
斎藤・益田・中村(達)・奥山・名取【委員】
小林・古屋・村田・雨宮【事務局】

欠席 荻原【委員】

1. 開 会

2. 課長挨拶

3. 委員長挨拶

コロナが5類相当になるが、高齢者で基礎疾患のある方の死亡率は多いと聞く。不安を抱えている人もいる。本運営委員会で課題の検討を進めるために、活発な意見をいただきたい。

4. 議事

(1) 令和4年度上半期事業報告

【権利擁護について】

藤巻委員(日下部警察署生活安全課 課長)

・高齢者虐待に関する通報については、今年、市内は報告にあった1件。県内では55件。日下部警察署管内では3件。甲州市1件、山梨市1件(身体的虐待にて分離)、施設1件。警察の関与のため、暴行事件として関わるものがほとんど。安全確保など急を要する事案が多い。

・徘徊等高齢者を保護した事案については33件。保護された方の居住地別に、甲州市13件、山梨市14件、その他2件。保護した方の連絡は、家族からは3件、警察の職務中が1件、本人から1件、一般の方からの連絡が28件。一般の方からの連絡が多いことから、地域での見守りの大切さを実感する。この地域は、市民が見守りをしてくれていると感じる。通報は、本人に話を聞いたが何を言っているか分からない。西関東道路(自動車専用道路)で歩いている人がいるといった内容が多い。

【認知症施策について】

久保田委員(日下部記念病院 院長)

・認知症初期集中支援事業に参加している。初期の段階で医療につながっていない方、関わるのが困難な方に関わるのが大切な事業。県内4つの同じような事業に参加しているが、甲州市は熱心に取り組まれている。認知症の初期の方は、身体も動く、会話もでき、そしてプライドが高い方が多い。徘徊やトラブルを起こしても、認知症と認めず、初期集中の職員が行っても「なんで来るんだ!」と追い返す方もいる。食らい

ついていかなければ、支援も入らない。医療、介護は本人が希望しなければ介入できないとあって、希望しないから介入しないという傾向もあるが、介入しないことが本人にとって良いことかは認知症の方にとってはわからないこともある。多少無理をしてでも医療につなぐ必要があることもある。甲州市は粘り強く関わっていると思う。

・地域とも連携をして、認知症をそのままにしないこと。今年の冬は寒さも厳しく、徘徊をして命に関わることもある。力を合わせて認知症の方を見守ってほしい。

大木委員（認知症の人と家族の会 さつきの会 会長）

・初期集中支援事業について、家族会としても力を入れていただきたいところ。ボランティアなどをしていると、それらしき（認知症かもしれない）方が目につき、数件包括支援センターへつないでいて、初期集中支援でも取り組みをされているようだが、なかなかうまくいかないのが現実。本人も家族も認知症と認めない。つながるまでに力が必要になる。

（3）地域課題の検討

【本人の想いを尊重した支援について】

斎藤委員

・コロナ禍でできないところはある。コロナの終息後にはさらに想いのノートについて周知を広げていけるのではないか。

中村（功）委員

・いろんなグループを作って検討を進めているようだが、本人やサポートする側の支援者に対する取り組みが多い。家族や周りの方々に対する取り組みが不足しているのではないか。その辺を検討していただきたい。

認知症を隠す時代ではない。コロナも当初は患ったことを隠す風潮があったが、今では公言している人も多い。そんな風に認知症を隠さなくても良い時代が来ると良い。家族、近所の人が、明日自分なるかもしれないという思いで認知症のことを考えられるような方向を転換することはどうか。

事務局

・本人の想いを尊重した支援については、認知症の方々だけでなく、誰でも自身の想いが考えられるよう想いのノートの周知先を広げるなどの取り組みは進めている。

・認知症施策については、今年度認知症の公開講座において、当事者に来てもらい話を伺った。その方も自分自身が認知症であることを伝えている。サポーター養成講座でも認知症の方へ垣根なく話ができるようお伝えをしている。オレンジカフェにおいても、当事者の方も参加してもらい、オープンな取り組みになるよう進めている。

久保田委員

・認知症の方へいかに社会で関わってもらおうかが大切。認知症サポーター養成講座へ参加する方は働いている世代が多く、地域には普段いない方となる。ある地域では、小学校、中学校で認知症の理解を伝えているところもある。地域全体で認知症のことを知っ

てもらふことも大切なのでは。

事務局

・塩山高校では2年生に毎年認知症サポーター養成講座をカリキュラムとして組んでいただいているので、毎年伺っている。以前小学校へも単発で養成講座を実施したことはあるが、継続的な実施には至っていない。小学校、中学校にもお声かけをし、継続的な取り組みなるようにしていきたい。

大木委員

・市民公開講座に参加した。講演に出ていた当事者の方は、地域全体で支えている。本人の幸せを周りが支えているということが分かった。私自身も地域のグランドゴルフの場や小学校3年生の児童向けなどにサポーター養成講座を行ったことがある。子どもが聞いたことは親に伝わることで、親も知ることができる。県内の南部の方だが、高校生が徘徊している高齢者を保護したという事例も聞いている。サポーター養成講座を実施する中でも理解してもらふのは難しいこともあるが、認知症のことを理解してもらふことが大切だと思う。

【高齢者の困りごと早期発見における体制づくりについて】

広瀬委員（塩山消防署次長）

・救急要請について判断に迷う場合、通報の遅れが重篤な状態につながる恐れもあるので、迷わず119番をしてほしい。通報に迷う場合は消防の代表番号にかけていただいても良いし、応急処置について口頭で指示を出すこともできる。

中村（文）委員

・判断に迷う場合の#119の使用についてはどうか。代表番号もとっさのときはかけられないかもしれない。

広瀬委員

・#119では直接消防署での対応とはならない。相談ということで119番通報してもらふと、相談ということで折り返し消防署の代表番号から電話をかけて対応することもできる。

斎藤委員

・警備会社のサービスにあるような、ボタンを押せばかけつけてくれるというものはどうか。

事務局

・民間のサービスで警備会社の他にもあるが金額はかかる。

斎藤委員

・市での取り組みはどうか

事務局

- ・ふれあいペンダントという仕組みはある。一人暮らしで、基礎疾患のある方、又固定電話のある方で近くに支援者のいる方など条件はある。希望される方には、民間のサービスについてのご案内もしている。

雨宮委員

- ・区長になって1年が経とうとしているが、認知症の方などの相談は今のところない。高齢者の方の困りごとに対することやそれ以外のことでどこへ連絡をするかは承知はしている。急を要する場合の相談があったときに、そのときの対応についてパニックにならないように準備をしておけば、いざというときに対応できると思う。

事務局

- ・高齢者の困りごとの早期発見の仕組みづくりのために作成したフローチャートは、まさにどこにつながかが書かれたものになるので、この資料をとおして、高齢者の方の困りごとをどこにつながかの説明をさせていただければと思う。昨年度区長会で集まりがあった際に説明をさせていただいたが、改めて集まりがあれば説明をさせていただきたい。

岩波委員

- ・救急要請をした際、住所を聞かれるが、固定電話からした際に住所は消防でも把握ができるのか。

広瀬委員

- ・固定電話でもわかるようにはなっているが、間違いのないよう、確認のため住所は伺う。

5. その他

6. 閉 会(副委員長：中村功委員)

認知症対策は本当に必要なことではあるがなかなか進まない。社協支部でも話があがるが、社協支部の取り組みでも高齢者と子どもを分けているが世代間交流が大切だと思う。神金地区では、グランドゴルフを子供から高齢者までごちゃまぜで交流している。世代間で平気で話ができる雰囲気作りが大切だと思う。